

日本国憲法施行75年の憲法記念の日

ねむろ「九条条の会」など各団体が街頭から平和の大切さ市民に呼び掛けました



日本国憲法が施行されてから75年目となる今年の5月3日、ねむろ「九条の会」と戦争させない・9条壊すな！総がかり行動根室実行委員会による街頭アピール行動が行われ、同実行委員会に加盟する団体などから約25名が参加しました。

ロシアのウクライナ侵略で緊迫した世界情勢が続く中、国内では改憲や核共有などの声などもきかれます。しかし、そうした今こそ憲法を守り活かそうと街頭から通行する車や市民らに訴えました。

開会あいさつで、ねむろ「九条の会」副代表の近藤敬幸さんは、ウクライナ問題に重ねて日本が引き起こした過去の戦争において数多くの悲惨な犠牲があった実態を振り返りながら、

「多くの犠牲と引き換えに手にした日本国憲法を壊し、さきの轍を踏むようなことがあってはならない。平和こそ全ての根幹にあることを理解する人々の層をより厚くするため、私たちのさらなる行動が必要だ。地域の中で、平和の大切さを訴えてほしい」と呼びかけました。

また根室高齢者退職者団体

連合会の佐藤巧さんは、

「戦争は悪であり、人殺しだ。いつも犠牲になるのは子どもを含めて民間人。国内の敵基地攻撃能力の保有を求める意見や防衛予算の増を求めている動きを大変憂慮している。平和と国民の生活を守ることを掲げて参議院選挙をたたかう。

これは命、自由、幸福追求や生存権など憲法が定める権利をまもることだ」と閉会あいさつをおこないました

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動根室実行委員会に参加する各団体のうち5名の方がリレートークとしてマイクを持ち、ウクライナ侵略を続ける「ロシアは直ちに撤退せよ」という声を上げ、改憲の策動を許さないこと、またいまの日本が直面している様々な社会的な課題を指摘して、そのために憲法を活かした社会の実現が重要であることを訴えました。

核兵器のない、平和で公正な世界を 原水禁国民平和大行進 根室コース出発式



5月8日に「原水爆禁止国民平和大行進」根室コース出発式が行われ、市内の労働組合など各団体が参加しました。

平和大行進は65年間にわたり広島・長崎の原爆を二度と繰り返さないために核兵器の全面廃棄を訴えてきました。新型コロナウイルス感染症防止のため、残念ながら3年連続で「通し行進」が取りやめとなりましたが、この間も各地で工夫した取り組みが行われていました。

今年の「根室コース出発式」では参加団体がそれぞれマイクをもって街頭から平和と核廃絶のアピールを行いました。根室連議長の中山氏は、ロシアのウクライナ侵略が長期化する中、核兵器の使用を匂わせるなど世界平和と秩序を破壊する暴挙に始めていると指摘。日本では敵基地攻撃能力や米軍との核兵器の共同運用が議論されようとしていることに対して、

「軍事力の増強によって世界の緊張を高めるのではなく、唯一の被爆国として核兵器の廃絶と軍事力によらない世界平和に貢献する道を最後まで徹底して追求しなくてはならない」と訴えました。

いよいよ市役所新庁舎の工事がはじまりました。まず外構工事からですが、駐車場内にある樹木の移植作業なども行っていきます。

